



撮影：山口真由子

あたらしい憲法のはなし、 あたらしい演劇のはなし

柴幸男

今年の8月は不思議な夏でした。はじめて出会った人たちと自由や平等や平和について語り合い、そして憲法にまつわる演劇をつくりました。

字面だけ見たらちよつと気持ち悪いですね。僕もそう思います。自由や平等や平和という理想のうさんくさがさそう思わせるのでしょうか。だけど、そのうさんくさい理想たちこそ今、僕は演劇で求めているのです。

稽古場を民主主義的な空間にできないだろうか。最近の僕の関心です。多数決で演劇をつくりたいわけではありません。でも、どうやら関わる人びとそれぞれが自由に活動を行うことで演劇が豊かになる気がするのです。もちろん自由はすぐに衝突します。だからそれを調整するのが演出の大事な役目になります。

演出家は権力を持っている存在だとかつての僕は錯覚していました。権力を拡大して演劇をつくろうとしていました。今はその時の考え、行動を深く反省しています。自由や平等や平等や権力や憲法について考え、演劇にすることは、僕の個人的な活動と深くつながっていたので

す。年齢、性別、国籍、思想、信条が違う人びとと憲法についての演劇をつくりながら、民主主義的な稽古場を実践する。それが今回の僕の目標でした。果たしてそれは叶ったのか。まだよく分かりません。しかし、理想は、向かうべき方向は、間違っていないような気がします。それは未来を考えるうえでとても大事なことだと思っております。

本作の戯曲は上演料も無料で公開しました。原作が無料で読めることもありですが、なにより21人が出演できる戯曲というのはいろいろな場所で役に立つのではないかと考えたからです。また、本戯曲は日本で上演されるのであればきつと誰もが当事者として関わることができそうです。

そして、僕の反省を未来の誰かがしなくても済むように稽古場の方法論、もしかしたら稽古場の憲法のようなものを今後つくれないだろうかと考えています。それは僕が書く最初の演出論になるでしょう。どこかの部屋や、稽古場で苦しんでいる誰かの補助線がつかれないかと考えています。

今、滞在している長野の空気はとても澄んで綺麗です。善光寺の上にはいつも青い空が広がっています。あの暑い、多摩の夏が、嘘みたいですね。自由も平等も平和も目には見えず、触れられず、形にも残りません。だけど、それらについて考えた時、僕たちの中にそれらは確実にある。この夏を思い出しながら、僕はそう思っています。

「Theater ZOU-NO-HANA」 今年も開催！

2013年に、横浜の象の鼻テラスを舞台にスタートした「Theater ZOU-NO-HANA（シアターゾウノハナ）」が今年も開催。気になる見どころは？

近年、劇場に留まらずさまざまな場所で、演劇を生み出すようになってきているままごと。横浜市の無料休憩所・象の鼻テラスは、そんな劇団の思いを実践する場として、近年ますます重要な場となっています。

「演劇とすれちがう」をコンセプトにした「Theater ZOU-NO-HANA」では、毎回俳優やクリエイター、ミュージシャンたちが多数集い、多様なパフォーマンスを繰り広げています。しかし今ではすっかりおなじみのこの鼻テラスという空間に、演劇（を始めたとするアレコレ）をどうしみ込ませていくか、から試行錯誤でした。

まず始めたのは仲間集め。気

になる俳優やクリエイターたちに参加してもらい、さまざまなワークショップを重ねました。その中で、演劇やダンス、歌、紙芝居、ラジオ、ツアー型パフォーマンス、フラッシュモブなど、ここにあると面白いもの、ここでやるのに相応しいものがコンテンツとして選ばれ、チームに分かれてさらに内容を強化していききました。そこで形になったコンテンツを、毎日日替わりプログラムとして、2013年11月11日〜12月15日の約1カ月間、上演したのが「象はすべてを忘れない」です。平日はサラリーマンの休息の場として、週末は観光客でにぎわう象の鼻テラスで、新たな風を巻き起こしました。

翌2014年は、前年の経験を生かしてさらに内容をブラッシュアップ。例えばフラッシュモブは飛び入り参加のお客さんも楽しめるように、動きがある程度分かりやすい「体操」に、またイベント感を強めるための特設ラジオブースや、お客さんのための案内所を設置しました。またガイドブックを使った演劇的街歩き「演劇クエスト」や、20分程度の演劇作品「象は夜景が観たいぞう」を夜限定で上演するなど新たな要素も加わり、内容によって、順番待ちの列や「満員御礼」の札が出るものも。屋外に設置された長い「海の見えるKOTATSU」で、港に向かってつかの間冷えた足を温める人たちの後ろ姿が印象的でした。

2年間にわたり、さまざまな企画が生まれた「Theater ZOU-NO-HANA」ですが、出演者の端田新菜が中でも、忘れられないことは、「スイッチの誕生」なのだとか。「1年目、あの空間に演劇がどうしたら邪魔にならず、押し付けがましくなく存在できるか」を演劇班がいろいろ考えた結果、スイッチを押しただけが楽しめる、「スイッチ演劇」が生まれました。翌14年夏、ままごとが小豆島で滞り制作する際に、なぜか光瀬指絵ちゃんと大石（将弘）君、山本（雅幸）君が「スイッチ班」として一緒に行くことになって（笑）。その時、柴君は「わたしの星」の稽古中だったんだけど、柴君不在にもかかわらずツアー型の「きもだめスイッチ」が出来たんです。その冬、象の鼻テラスで2度目の「ゾウノハナスイッチ」を経験して、今年4月の六本木アートナイトでス



海の開放感が手伝って、続々と象の鼻テラスに人がやってきました。



象の鼻パークの青空の下、みんなで身体を動かす！



スイッチは象の鼻テラスでも大人気でした。



知らない人同士が隣り合って足を温め合う「海の見えるKOTATSU」。



窓から遠い場所に移され、夜景が見えない象のペリー。その想いを叶えてやろうと居合わせた人たちが手伝って……。象は夜景が観たいぞうより。

タイムテーブル | TIME TABLE

12月4日・11日・18日

ALL TIME | ① ③ ⑤ ⑥

12:00 - 12:30 | ② ③

13:00 - 14:00 | ⑦

14:00 - 14:30 | ④

14:30 - 15:00 | ②

16:30 - 17:00 | ⑧

会期中金曜日

12月5日・12日・19日

ALL TIME | ① ③ ⑤ ⑥

12:00 - 12:30 | ② ③

／ 12:00 - 13:10 | ⑩(有料)

13:00 - 14:00 | ⑦

14:00 - 14:30 | ④

14:30 - 15:00 | ②

15:30 - 16:15 | ⑨(有料)

16:30 - 17:00 | ⑧

17:30 - 18:30 | ④(有料)

会期中土曜日

12月6日・13日・20日・23日

ALL TIME | ① ③ ⑤ ⑥

12:00 - 12:30 | ② ③

／ 12:00 - 13:10 | ⑩(有料)

13:00 - 14:00 | ⑦

14:00 - 14:30 | ④

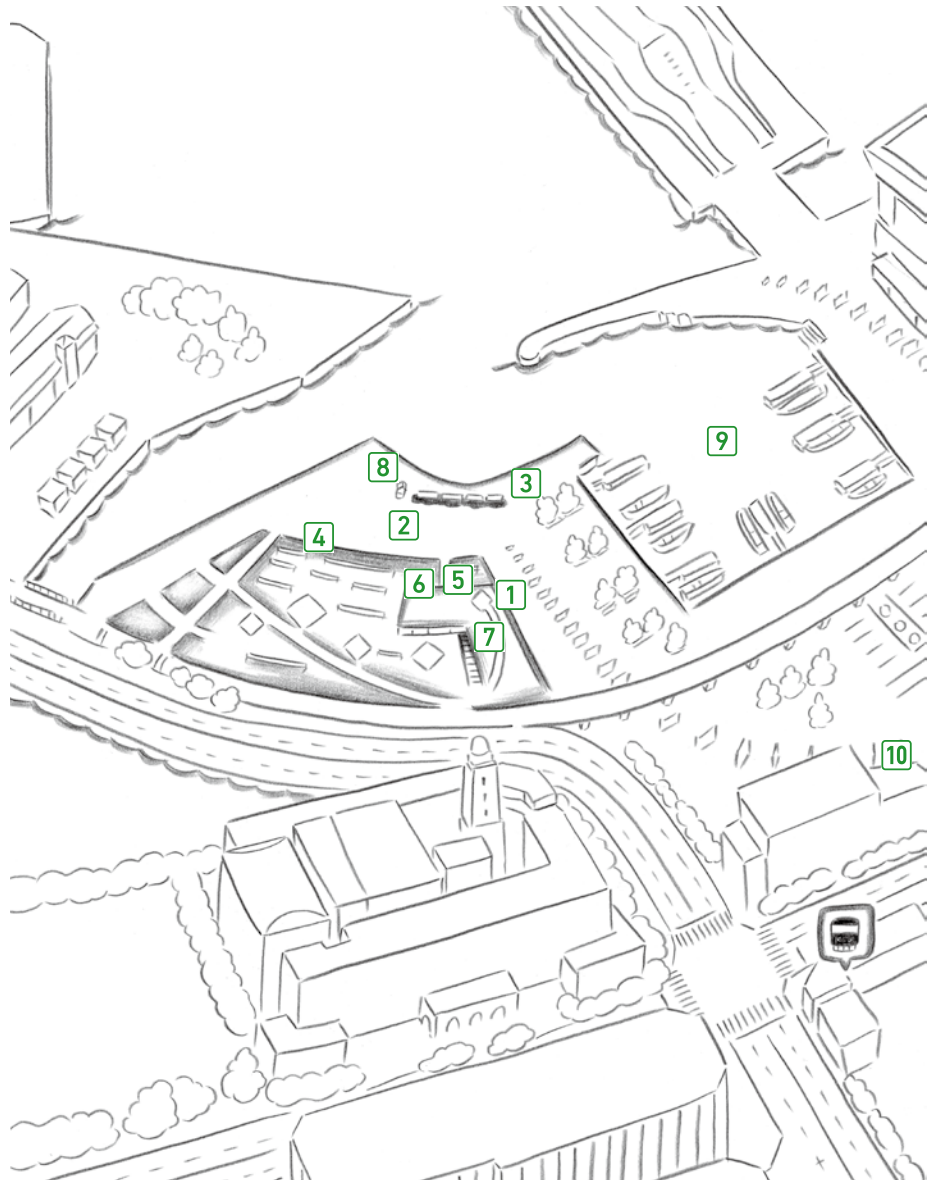
14:30 - 15:00 | ②

15:30 - 16:15 | ⑨(有料)

16:30 - 17:00 | ⑧

17:30 - 18:30 | ④(有料)

会期中日曜日&祝日



イッチは完全に独立し、スイッチ総研となりました。今思うとスイッチの誕生は奇跡だし、現在あちこちで大活躍中のスイッチが、実はもともと、Theater ZOU-NO-HANAのクリエイションから生まれたものだったというのは、ちょっといい話ですよ、フフフ(端田)。

ただ休憩目的で象の鼻テラスを訪れた人たちが、知らないうちに演劇に触れ、演劇とすれ違う—そんな演劇との新たな出会いの場を提供する、「Theater ZOU-NO-HANA」。

今年の年末も、散歩気分ぜひ、横浜の象の鼻テラスにお出かけください。

新企画にも注目!

「Theater ZOU-NO-HANA 2015」

今年の「Theater ZOU-NO-HANA」は全部で10プログラム。昨年の人気企画に加え、新企画2本が登場し、内容もエリアも、パワーアップしてお届けします。さらに、昨年までは流動的だったタイムテーブルが、今年は事前発表されているので、お目当てのプログラムがより見やすくなるはず。さあ、あなたはいくつ、体験しますか?

①「ゾウノハナラジオ」

FM187、みんなイイハナ、ゾウノハナラジオが今年も登場。会場内のラジオブースから生放送します。

②「ゾウノハナたいそう」

飛び入り参加大歓迎! 海を見ながらみんなで身体を動かして、寒さなんて吹き飛ばしましょう。

③「海の見える KOTATSU」

昨年好評だった、長さ12メートルの長いコタツ。やっぱり冬はコ・タ・ツです!

④「ゾウノハナスイッチ」

大人気のスイッチが今年も発動! スイッチを押すと、何が出るかな、何が出るかな? (一部有料公演。要予約)

⑤「演劇クエスト・港のファンタジー編」

「冒険書」に従って横浜の街を歩こう! ストーリー・テキストを柴が執筆しています。

⑥「聴くだけ! 3分旅行」

音声ガイドに従って辺りを歩いてみよう。いつもと違う風景が見えてくる……かも。

⑦「ゾウノハナツアー」

ガイドに導かれ、いざシヨート・トリップへ! 昨年の大評判だった予約制のツアー公演。

⑧「ゾウノハナライブ」

星野概念実験室、ゾウノハナ合唱部ほかの出演で、ステキな音楽をお届けします。

⑨「ゾウノハナクルーズ」

今年初登場の企画。横浜の景色を、物語とともに楽しむ贅沢なクルージング演劇。(有料公演。要予約)

⑩「ゾウノハナランチリーディング」

今年初登場の企画。カフェレストラン・Charan Paulieにて、美味しいランチとリーディングをセットで楽しもう。(有料公演。要予約)

「多摩1キロフェス」レポート

9月19・20日に多摩センター駅周辺で行われた「多摩1キロフェス2015」。ままごとメンバーは、野外劇『あたらしい憲法のはなし』と、「多摩1キロフェススイッチ」で参加しました。



「多摩1キロフェススイッチ」

多摩センター駅から多摩中央公園の約1キロのエリア内で、音楽から演劇、ダンスまで2日間に行ったり、さまざまな催しを行う「多摩1キロフェス」。第3回となる今年、ままごとのメンバーも初参戦しました。

フェスの中心、水上ステージで上演されたのは、柴幸男が作・演出を手掛けた水上野外市民劇『あたらしい憲法のはなし』。長年にわたる大雨で、かろうじて残ったある小さな島。はじめは少数者のんびり暮らそうとしていた島民たちも、人口が増えるにつれ争いが絶えなくなり……。1947年から52年まで使用された同名教科書をもとに、新しく「国」をつく

ることになった人びとが、そこを住み良い場所にするため、さまざまなルールを考えていく、という物語です。

下は小学生から上は60代の大人まで、多彩な顔ぶれのキャストがそれぞれの立場から、住み良さを主張するシーンは、滑稽でありながら身につまされる部分も。やがて、それぞれの「正義」を掲げて、「戦争だあ!」と水の掛け合いが始まり……。出演者たちの衣裳がずぶ濡れになるにつれ、観て

いるこちらの心にもその冷たい水がしみ渡ってくるような、臨場感あるラストでした。

本物の「魔もの」も登場!?

一方、とにかくスイッチを押したくてたまらない子供たちから、通りすがりのお年寄りまで、老若男女に広く受け入れられていたのが、「多摩1キロフェススイッチ」。昼間は多摩センター駅から続くメインストリートで単発のスイッチを、夜は予約制で「闇夜のハイキング」多摩1キロフェスウォーク」と題したツアー型スイッチを披露しました。

夜の「闇夜」は、14のスイッチを見つげながら約30分間、魔界(?)と化した多摩中央公園を回るというもの。鬼やお化けが出てきたり、はたまたくり拾いの亡者が現れたり、参加者はビククリしたり笑ったりで大忙し。しかし最も驚いたのは、14個目のスイッチを押しした時、当時韓国で『颱風奇譚』の稽古中のはずの大石将弘が突如現れたこと! あの男性は本当に大石だったのか、それとも大石の生霊だったのか……!今となっては確かめるすべがありません。

ミエ・ユースメンバー決定!

一昨年スタートした、三重県文化会館の「若手限定U25の期間限定劇団」ミエ・ユース演劇ラボ。三重で新しい演劇の創り手となる人材発掘を目指す、同劇場主催のプロジェクトです。

昨年度はハイバイ・岩井秀人が指導者を担当。メンバーに自分たちの物語を自作自演させるオムニバス形式の作品で好評を博しました。そして今年、第3弾の指導者を柴幸男が務めます。メンバー公募には17歳から23歳まで、約14名の応募があり、9月のオーディションで全員合格となりました。柴は今回、メンバーそれぞれに「出演」だけでなく、「劇作」も経験してほしいと考えているそうで、オーディションでは柴から、そんな戯曲執筆に対する興味についても質問がなされました。

メンバーは、2月の上演に向けて、これから約半年間にわたり劇作を重ねていきます。その過程で、劇団員たちもそれぞれ三重を訪れ、ワークショップを行ったり、俳優や制作といった自身の役割に



オーディションの様子

についてお話しする機会もあるとか。劇団としてもまたとない機会になりそうです。

ミエ・ユース演劇ラボについて柴は、「東京から参加してくれる高校生もいてなんだか不思議なチームが出来上がりそうです。演劇と個人と集団について、僕も自分の活動を振り返りながら一緒に考えていきたいと思っています。目標は彼らの手によるオリジナル短編集と劇場外企画の同時上演です。僕もわくわくしています」とコメント。三重での新たな出会いに、期待が膨らみます。

NEXT

キラリふじみ レパートリー新作
日韓共同制作「颱風奇譚(たいふうきだん)」

◇大石将弘【出演】
@東京芸術劇場シアタートイースト
2015年11月26日(木)・29日(日)
@キラリふじみ マルチホール
2015年12月4日(金)・6日(日)

ままごとX象の鼻テラス

「Theater ZOU-NO-HANA 2015」

◇柴幸男【構成・演出・大石将弘【出演】
演・端田新菜【出演】
加藤仲葉【制作・出演】
【制作・出演】
@象の鼻テラス、象の鼻パーク ほか
2015年12月4日(金)・23日
【水・祝】の毎週金・土・日曜・祝日

ミエユース演劇ラボ

◇柴幸男【構成・演出・加藤仲葉【制作】
@三重県文化会館 2016年2月
□編集後記 2015年は「わが星」の再々演と小豆島公演を実現したままごとですが、12月の「Theater ZOU-NO-HANA 2015」が年内最後の公演となります。ぜひ演劇と、年内最後の公演にいらしてください! (熊井)



「あたらしい憲法のはなし」
撮影：山口真由子



「多摩1キロフェススイッチ」